

瓦版

かななべ未来会議

みんなで、神辺エリアの未来について考えるワークショップを開催しました。神辺駅のまわりを、もっと住みやすい場所にするためのアイデアを話し合ったり、楽しく暮らせる未来について話し合っています。

【ワークショップ】かななべ未来会議・第二回レポート 全ては妄想から。未来図のアイデアをグループワーク

第二回
WS開催日
2024.10.6
(sun)
@ 神辺交流館

10月6日(日)に神辺の未来を考えるワークショップ「かななべ未来会議」の第二回を開催しました。

まずはじめに、神辺支所神辺建設産業課の担当者が、神辺駅西側川南地区の土地区画整理事業について説明しました。実は長らく停滞していた土地区画整理事業。しかし、川南地区の住民の方々が誰でも安心安全なまち「若い世代の定住促進」などを願って集まり、協議を重ねた結果、今の基盤整備の計画ができあがったことでした。担当者は「暮らしの基盤を整えた後は、どう使っていくかが重要」と、引き続き官民連携の必要性を話していました。

その後、島根県雲南市でまちづくりに取り組まれている岡晴信さんから講演をしていただきました。岡さんは、前職で「企業チャレンジ」として雲南市に関わり、そのまま移住。現在は木次地区で古民家再生による地域の拠点作りに取り組まれています。雲南市では平成十六年の六町村合併の際に、住民が主体的に地域づくりができる組織作りがなされたこと、それを母体として「チャレンジする人を応援する」体制が作られたこと、子どもから大人、さらには企業をも巻き込んで様々なチャレンジが生まれていることなどについて、お話を伺いました。

その後は質疑応答。

雲南市独特の地域組織の成り立ち／チャレンジしたいという声の拾い方／古民家再生プロジェクトの経過など熱心に質問がなされました。



△今回は「神辺交流館」で開催



△ドローンで撮影した川南地区と建設中の道路の様子



△雲南市のビジョンイラストと講演いただいた岡晴信さん



△第二回ワークショップの会場の様子

印象的だったのは、「やりたい人」と行政をつなぐ中間支援組織や、市民の寄付で設立されたコミュニティ財団の存在です。市民からた提案を実現させる仕組みが作られていることで、チャレンジしやすく、また「自分たちの手でより良い地域にできる」という確かな手応えが、行動の原動力になっていると感じました。

自分の妄想が広がったり、他の人の妄想と連携できそう、などさらに実現への手がかりが見えてきます。

三グループの未来図アイデアはこちらです。

「Aグループ」神辺駅前に銀杏並木をつくり、観光名所に神辺の歴史を楽しく学べる周遊型謎解きゲームをつくり、人が集まり滞在するきっかけ／散歩ロードを整える

「Bグループ」とにかく人が集まれる場所をつくる／廉塾に做って、大人も子どもも学べる場をつくる／ウォーキングロードを整えて、食べ歩きや健康増進につなげる

アイデアをマッピングし、まちのビジョンを考えてみるワークショップ

全ては妄想から、との意識でその後はグループワーク。事前に考えてきてもらった「神辺でやりたいこと妄想シート」を各自発表し、それを地図にマッピングしていきました。具体的な場所を想定してみると、どのグループも盛り上がっていました。

「Cグループ」駅周辺でマルシェを開催して、若男女が楽しめる場に／赤ちゃんやお母さんにつながる、楽しめる場所をつくる／廉塾を活用して学生が学び世界へ羽ばたく人材育成を

妄想だった「かななべの未来図」が具体性を帯びてきました。これをもとに、第三回の最後のワークショップで未来図を作り上げていきます。

合わせて、岡さんに倣い、今回でた妄想やアイデアを小さい規模でも実現させてみる、という取り組みも大切です。ワークショップ参加者から「活動したい人」と「活動を応援したい人」を募り、チームを組んでプロジェクトを考えていきます。

さて、一体どんなかななべの未来図ができるのでしょうか。楽しみです。

